



Title	内陸アジア言語の研究 XIV 裏表紙
Author(s)	
Citation	内陸アジア言語の研究. 1999, 14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21852
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『内陸アジア言語の研究』執筆要項

1. 本誌は、中央アジアと中国を中心に、東は東北アジアから西は黒海沿岸にまで広がる、中央ユーラシアの諸民族が用いる様々な言語、及びその言語で書き残された古代～近代の文献資料（出土文書・碑文・宗教典籍など）を、言語学的あるいは歴史学的に扱う論文を掲載する。
2. 原稿は未発表のものに限る。ただし口頭発表したものはこの限りではない。
3. 原稿の長さは自由である。論文の場合、刷り上がり状態で 20 ページ（400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚）を一応の目安とする。ただし、数ページ程度の研究ノートや資料紹介の類も歓迎する。
4. 原稿は、完全原稿の形で提出されたものを、フロッピーないし電子メールの添付ファイルで受け付ける。組版は Macintosh の Adobe PageMaker-J を用いて行なう。
5. 入稿について
 - 1) Macintosh 使用の場合
特に 30 ページを越える原稿については、経費軽減のため、Adobe PageMaker-J にて割付済みの原稿を入稿するのが最も望ましい。内陸アジア諸言語の転写に必要なフォントや、割付のスタイルを指定したテンプレート・組方規則などは、編集部から配布する。また、PageMaker 以外の Macintosh ワードプロソフトを利用する場合は、編集部に連絡されたい。
 - 2) MS-DOS, Windows 使用の場合
各種ワードプロソフトを用いる場合、MS-DOS テキストファイル形式に変換し、フロッピーディスクで入稿するとともに、印字した完成原稿を送付すること。ワードプロにない漢字・記号などの部分は、当該箇所を空けて朱筆で指示されたい。旧字体への変更も、必ず提出稿の段階で指示されたい。本文中の註番号は、該当箇所(1)のように通し番号を挿入する。
 - 3) 以上はあくまでも原則である。不明の点は編集部にお問い合わせされたい。
6. 書式として、以下の統一方針を定める。
 - 1) A5 版横組み、奇数頁起こしとする。
 - 2) 句読点は「、・」を用い、「、。」は用いない。
 - 3) 地の文にはつとめて当用漢字・新かなづかいを用い、旧字体・旧かなづかいの使用は引用文等で必要な場合のみにとどめる。
7. 論文末尾に執筆者の所属・肩書・専攻、表題の欧米語訳、執筆者名のローマ字表記を付記すること。
8. 原稿の締切日は毎年 3 月 31 日とする。
9. 初校は著者校正とし、再校以降は原則として編集委員の責任とする。校正はあくまでも誤植の訂正にとどめ、原文の増減は認めない。
10. 抜刷は作成しない。各執筆者には本誌 10 部を献呈する。

執筆者紹介

宇野伸浩 (Nobuhiro UNO)

広島修道大学助教授 東洋史学専攻

村岡 倫 (Hitoshi MURAOKA)

龍谷大学文学部専任講師 東洋史学専攻

松田孝一 (Kōichi MATSUDA)

大阪国際大学経営学部教授 東洋史学専攻

Semih TEZCAN

Professor, Otto-Friedrich Universität トルコ文献学専攻

Abdurishid YAKUP

新疆大学中国語言系副教授 トルコ文献学専攻

森安孝夫 (Takao MORIYASU)

大阪大学大学院文学研究科教授 東洋史学専攻

Peter ZIEME

Professor, Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften トルコ文献学専攻

石川 巖 (Iwao ISHIKAWA)

財団法人東方研究会研究嘱託 東洋史学専攻

早田輝洋 (Teruhiro HAYATA)

大東文化大学外国語学部教授 言語学専攻

Marcel ERDAL

Professor, Johann Wolfgang Goethe-Universität トルコ文献学専攻

内陸アジア言語の研究 XIV

1999年8月25日 印刷

1999年9月10日 発行

責任編集 森 安 孝 夫 (大阪大学)
吉 田 豊 (神戸市外国語大学)
Peter Zieme (Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften)

発 行 者 中央ユーラシア学研究会
〒560-8532 豊中市待兼山町1-5 大阪大学文学部森安研究室
tel: 06-6850-5103 / fax: 06-6850-5091
e-mail: sial@bun52.let.osaka-u.ac.jp
<http://bun52.let.osaka-u.ac.jp/sial/>

取 扱 店 株式会社 朋 友 書 店
〒606-8790 京都市左京区吉田神楽岡町8 tel: 075-761-1285

印 刷 所 有限会社 中部ワードサービス
〒440-0865 豊橋市向山台町10-10 tel: 0532-55-8503

STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES XIV

N. UNO, H. MURAOKA & K. MATSUDA : Persian Inscription in Memory of the Establishment of a Khānqāh at Qara-qorum	1
S. TEZCAN & A. YAKUP : A Chaghatai Turkic Text on the Life of Mani	65
T. MORIYASU & P. ZIEME : From Chinese to Uighur Documents	73
I. ISHIKAWA : <i>Ru</i> "Horn" of the Tibetan Empire: with Special Reference to Its Relationship with <i>khrams</i> "Register Made of Wood" in the <i>Royal Annals</i>	103
T. HAYATA : Some Manchu Words Meaning "Only"	117
Bibliography of Marcel ERDAL	139

The Society of Central Eurasian Studies